

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 11 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20520287

研究課題名（和文） ポール・ヴァレリーにおける官能性の詩学

研究課題名（英文） The Poetics of sensuality in Paul Valéry

研究代表者 松田 浩則 (MATSUDA HIRONORI)

神戸大学・大学院人文学研究科・教授

研究者番号：00219445

研究分野：仏文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学

キーワード：ヴァレリー、詩学、官能性

1. 研究計画の概要

(1) ポール・ヴァレリーの晩年における恋愛体験がその詩作にどのような影響を与えているのかを明らかにする。

(2) 従来、「地中海的な知性」の持ち主といわれていたヴァレリーに恋愛体験がどのようなエクリチュールの変化をもたらしたのかを明らかにする。

2. 研究の進捗状況

(1) ポール・ヴァレリーがその晩年の愛人ジャン・ヴォワリエにあてた手紙と詩篇をパリのフランス国立図書館で3年間にわたり調査し、その詩篇については、フランスのファロワ社から刊行されているものよりも完成度の高いエディションを編集し、翻訳した（ポール・ヴァレリー『コロナ・コロニラ』、中井久夫氏との共訳、2010年、みすず書房）。そして、数本の論文を書いて、この詩集の意義を明確にするとともに、官能的な要素がいかにヴァレリーのエクリチュールに深い陰影を与えているのかを明らかにすることもできた。また、慶応義塾大学の研究者を対象にこの詩集の成立事情や意義を講義したり、彼らと今後の研究方法について意見を交換する機会も得た。さらに、同大学刊行の「三田文学」誌上で、ヴォワリエならびに『コロナ・コロニラ』をめぐる、清水徹氏と田上竜也氏と鼎談をおこない、より広い読者層にむかって、研究の成果を発表することができた。

(2) ヴァレリーがヴォワリエに宛てた手紙の研究も、おおいに進んでいる。ほぼ600通の手紙を整理し、その一貫した読みの可能性を探ることができた。書簡そのものの刊行は、

著作権の問題やプライバシーの問題もあり、困難が予想されるが、部分的に翻訳したものに詳細な註を付け加えるかたちでの発表を進めている。

(3) ヴォワリエとの恋愛が執筆のきっかけともなっているヴァレリーの『わがファウスト』についても、新たな観点からの読みなおしを行った。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。
ヴァレリーとヴォワリエに関する資料のほぼすべてを入手したばかりでなく、その資料をもとに『コロナ・コロニラ』を翻訳出版できたこと、さらにまた『わがファウスト』の新しい翻訳を詳細な註とともに出版できる目途がたったこと。

4. 今後の研究の推進方策

フランス国立図書館で収集した資料をもとに、『わがファウスト』の新訳を進めているが（2011年刊行予定の筑摩書房『ヴァレリー集成』第6巻中に掲載予定）、さらに、ヴァレリーがヴォワリエに宛てた書簡を部分的に翻訳して刊行することを目指している。ほぼこれで、ヴァレリーとヴォワリエをめぐる問題のすべてに解答を出したことになるはずである。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

① 松田浩則「ヴァレリー：1894年」、『仏

語仏文学研究』、第 29 卷、東京大学仏語
仏文学研究会、15-25 ページ、2011 年、
審読有

② 松田浩則「ヴァレリーあるいは黄昏時の
優しさ」、『コロナ・コロニラ』第 1 卷、
みすず書房、7-46 ページ、2010 年、審
読無

③ 松田浩則「ヴァレリーあるいは『愛の子
供』」、『ヴァレリー研究』、日本ヴァレリ
ー研究センター、第 5 号、9-32 ページ、
2009 年、審読有

〔学会発表〕（計 1 件）

① 松田浩則「ヴァレリーと『コロニラ』」、
慶応義塾大学仏文学研究会、2009 年 11
月 28 日、慶応義塾大学

〔図書〕（計 0 件）